

大竹市立中学校用教科用図書（「特別の教科 道徳」
を除く）採択のための調査研究について（答申）

大竹市教科用図書採択地区選定委員会

令和元年7月11日

大竹市教科用図書採択地区選定委員会答申

※「発行者」の欄は、教科書目録により略称を記入。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（推薦理由）
国 語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材冒頭に学習の視点や方法が明確でわかりやすい目標が示されている。 ・ 実生活とつながりのある、単元を貫く言語活動が意識された課題が設定されており、課題を解決するためのポイントが「言葉の力」に簡潔に示されている。 ・ 各学年とも、資料編に「読書活動を楽しもう」として、読書活動に関する教材を掲載しており、作成の手順が簡潔にまとめられている。 ・ 古典においては、1年生の導入に生徒が親しみを持つような工夫がある。
書 写	光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毛筆の姿勢と構え方が写真（横と正面）とともに記載されており、チェック項目がある。 ・ 「行書と楷書の使い分け」など活動のページは、イラストや写真が用いられ、直接書き込みなどでもできるようになっており、使いやすい。 ・ 「資料」が50ページもあり、国語科の言語活動や総合的な学習の時間と関連付けて、学年や段階に応じた多様な活用ができる。
社 会 【地理的分 野】	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竹島、尖閣諸島、北方領土についての特設ページが設けられており、位置だけでなく島の様子まで文で示されている。 ・ 地理の学習を進める上での基礎的・基本的技能を習得する「スキルアップ」のコーナーが随所に設けられている。 ・ 小学校との接続を意識し、各章の最初のページで小学校での学習内容を想起させる配慮がある。
社 会 【歴史的分 野】	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の学習内容が第1章として設けられている。絵・イラストと振り返りのヒントがある。 ・ 毎時間ごとに課題とまとめが提示されており、そのつながりもある。 ・ 防災について、詳しい資料を載せてある。 ・ 資料には番号があり、本文の内容との関連を示す表記がある。
社 会 【公民的分 野】	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。 ・ 「学習の整理と活用」という学習内容の定着や活用のための問いがあり、地理的分野・歴史的分野との関連を図った学習が配列されている。 ・ 各編の初めに「ナビ」をおき学習の見通しをもたせ、各章に課題解決学習をおいている。 ・ 見開きごとに「学習の活用」が配置され、具体的な説明（文章や箇条書き）が求められる問いとなっている。 ・ 各章に「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「アクティビティー」「学習の整理と活用」という課題解決の設定がされている。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（推薦理由）
地 図	帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳の基本的な見方や使い方が、すっきりしていて見やすい。 ・ 「地図を見る目」を通して、地図を活用して主体的に学習を進められる設問が設けられている。 ・ 巻末の統計資料が他社より詳しく、視覚的にも見やすい。 ・ 「やってみよう」のコーナーを多数設けて、地図を活用した言語活動を促している。
数 学	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紙コプターで学習を進めている。生徒の操作活動（実験）を通して資料を収集し、それらを用いて学習の流れを作っている。また、活動しやすいように、付録がついている。 ・ 「数学展望台」や「千思万考」など、学習したことを活用するうえで、資料が豊富である。 ・ 「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」のマークが課題や問いについており、数学的活動が示されている。授業の中で取り扱いやすい課題が多い。
理 科	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「科学の本だな」で学習内容に関連した図書の紹介があるとともに、「どこでも科学」で、生徒自身が手軽に行える活動やものづくりが紹介されており、興味・関心の高まりや学習の深まりにつながっている。 ・ 各学年の巻頭に探究の流れが示してある。特に「学びを活かして考えよう」が小単元末にあるが、課題の着眼点がよく、生徒が意欲的に学習する上で意欲の向上につながる。 ・ 単元ごとの最初のページでは、1ページの写真があり、before afterとしてその単元での課題を単元最後のページにも提示することでまとめを自らできるようにしてある。
音 楽 【一般】	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱及び創作の基礎・基本の定着を図るために、段階的に学習する工夫や継続して取り組むための手掛りがある。 ・ 主体的に学習に取り組むために、生徒の学習意欲を喚起する情報が豊富で具体的な手掛りが示されている。 ・ 発展的な学習へのアプローチがある。
音 楽 【器楽合奏】	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽の基礎・基本の定着を図るための、基礎的な知識の説明や奏法の示し方が分かりやすい。 ・ 主体的に学習に取り組むために、創作を取り入れたグループ活動がある。 ・ 楽器ごとに発展的な学習への取組があり、生涯学習へのアプローチもある。

種 目	発行者	選定委員会意見（推薦理由）
美術	光 村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゲルニカ」など、生徒たちが有名な絵画と出会うとき、とても大切な要素である作品の色が他社よりも本物に近く再現されている。 ・ 生徒が作品と出会うとき、情報と鑑賞作品を分けることによって、先入観を持たせない工夫がなされている。 ・ 美術2・3の巻頭をはじめ、生徒の生活と美術との関わりが整理されており、生徒がより美術を身近に感じられる工夫がされている。
保健体育	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読み物」や「章末資料」で具体的な説明をしたり、先輩からのメッセージを掲載したりするなど身近に感じさせる工夫をしており、実生活・実社会へと発展させる工夫もされている。 ・ 導入と学習内容が関連付けられており分かりやすい。学習を深めるポイントをイラストで示し、クイズや章末資料を活用したり、論理的思考を高めたりする工夫がされている。 ・ 巻頭で、学習方法を紹介しており、学習活動の中で言語活動に係る学習活動を促す工夫が見られる。章末には考えを記述する場面を設定している。
技術・家庭 【技術分野】	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容の終わりと単元ごとに振り返りがあり、ABCで評価するだけでなく、具体的な記述が求められ、形成的にも総括的にも理解度がチェックできる。 ・ 「参考」というコラムを設け、技術的な知識を広げ、興味、関心を持たせる工夫がある。 ・ ガイダンスの内容が質・量ともに充実している。（18ページ分） ・ B5サイズの紙面にコンパクトにわかりやすくまとめてあり、情報量も多い。しかも軽量である。 ・ 「考えてみよう」「話し合ってみよう」において図や写真、表などを基に考えたり、説明したりする項目が設定されている。
技術・家庭 【家庭分野】	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの学習のつながりが明確である。 ・ 写真が鮮明で生徒関心意欲を高めるのに効果的である。 ・ 調理実習の実習例が豊富で、写真の美しさ、手順の分かりやすさ等生徒が作ってみたいくなるよう工夫されている。 ・ どの単元でも「探究」や「生活に生かそう」が取り上げられており、学習したことを実生活に生かし、実践力を高めるための工夫がみられる。 ・ 巻末には、「生活の課題と実践」のページがあり、学んだことを社会に生かすなどの内容が充実している。

種 目	発 行 者	選定委員会意見（推薦理由）
英 語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入門期は、「Hi, English!」（話す・聞く）と「Unit 0」（アルファベット）の二段階になっており、小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。 ・ 各活動のページ上の配置が同じで分かりやすく、書き込みができるスペースがある等、指導者が様々な工夫をすることができる。 ・ 文法事項は「まとめと練習」でまとめてあり、構造的で分かりやすい。演習問題があり、理解度を確認できる。

教科別教科用図書採択対象発行者一覧(平成28～31年度使用)

種 目	採択対象 発行者数	発 行 者
国 語	5	東書・学図・三省堂・教出・光村
書 写	5	東書・学図・三省堂・教出・光村
社 会 (地理的分野)	4	東書・教出・帝国・日文
社 会 (歴史的分野)	8	東書, 教出, 清水, 帝国, 日文, 自由社, 育鵬社, 学び舎
社 会 (公民的分野)	7	東書, 教出, 清水, 帝国, 日文, 自由社, 育鵬社
地 図	2	東書・帝国
数 学	7	東書・大日本・学図・教出・啓林館・数研・日文
理 科	5	東書・大日本・学図・教出・啓林館
音 楽 (一般)	2	教出・教芸
音 楽 (器楽合奏)	2	教出・教芸
美 術	3	開隆堂・光村・日文
保健体育	4	東書・大日本・大修館・学研
技術・家庭 (技術分野)	3	東書・教図・開隆堂
技術・家庭 (家庭分野)	3	東書・教図・開隆堂
英 語	6	東書・開隆堂・学図・三省堂・教出・光村

※発行者は、教科書目録に登載されている略称を使用

中 学 校 国 語

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・教材冒頭に学習の視点や方法が明確でわかりやすい目標が示されている。 ・実生活とつながりのある、単元を貫く言語活動が意識された課題が設定されており、課題を解決するためのポイントが「言葉の力」に簡潔に示されている。 ・各学年とも、資料編に「読書活動を楽しもう」として、読書活動に関する教材を掲載しており、作成の手順が簡潔にまとめられている。 ・古典においては、1年生の導入に生徒が興味を持つような工夫がある。 ・文法の解説のレイアウトがやや扱いにくい。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの窓」という学習の手引きに、目標を意識した課題と「ついた力を確かめよう」という表があり、学習者の自己評価活動を意識している。 ・各単元、初めに「読む」学習として2～5の教材が設定され、その後に発展的に扱えるような選択教材が設定されている。 ・学習の目標が言語活動を意識したものになっていない。 ・図表・グラフと関連付けた「読む」教材がない。 ・「読むこと」の教材が難解で分量も多い。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・本編で学習した読み方のスキル（技術）が「読み方を学ぼう」に簡潔にまとめられ、3学年とも巻末の一覧に集約されており、活用できる。 ・巻末の「資料編」に「読書の広場」や「考える広場」が設定されており、古典を含め、本編と関連させて読書の幅を広げ、発展的な学習を行えるよう工夫されている。 ・資料編「考える広場」で、言語活動を支える学習方法がまとめられている。 ・「情報探しのヒント」「情報活用のヒント」で書籍の探し方と引用の仕方が紹介されているが、3学年とも同じ内容である。 ・「読むこと」や古典の学習において、言語活動を意識した目標は見られない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の視点や方法が具体的でわかりやすい目標が示されている。 ・巻末の「学びのチャレンジ」は、本編の教材と関連させて発展的な学習に生かすことができる。 ・古典は、資料、解説が豊富に入り、巻末にも折り込みに資料がある。 ・問題解決的な学習の内容に工夫がなく、生徒の興味・関心を喚起する内容とは言えない。 ・読書活動に関する教材が少なく、活動手順についての詳しい説明がない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・「次へつなげよう」というコーナーでは、「生活に生かす」「他教科に生かす」という形で発展的な言語活動が提示されている。 ・古典教材の後に、言語活動が設定されている。 ・表現テーマ例集が充実している。 ・「読むこと」において、言語活動を意識した目標は見られない。 ・古典においては、基礎的な事項が解説されているが、詳しくないので補足が必要。

中 学 校 書 写

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆と硬筆の姿勢の項目の記述に写真（横向き）とイラストがあり、姿勢による文字の見え方の違いも示されていて分かりやすい。 ・「目標→調べよう→確かめよう→広げよう」という学習の手順が示され、活動の見通しが立てやすい。 ・単元の初めに原寸サイズの大きな手本があり、手本は平明な文字で示されている。 ・「常用漢字表」だけでなく、「人名漢字」一覧も掲載しており、名前の指導に使いやすい。 ・「生活に広げよう」の他にも、相手や目的に合わせた道具や書き方について話し合う活動例があり、活動手順などの説明も詳しく、「資料編」と関連付けて使いやすい。 ・写真や図が多く、活動ごとに学習の手順が異なる形で示されているため、統一感に欠け、分かりにくい印象を与える。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭（2ページ、3ページ）に「学習の進め方」が示され、毛筆学習の手順の見通しが立てやすい。 ・1年生では「楷書→楷書と仮名→行書」、2年生では「楷書→行書→行書と仮名」のように、各単元を明確に分けて示している。 ・学習内容の初めに手本がまとめて示されている。毛筆の手本はすべて原寸サイズで大きく、見やすい。 ・硬筆についての記述は姿勢のみで、持ち方についての記述が少ない。 ・1年生の学習内容に、書写を生活に生かすための記述がない。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の姿勢や持ち方等のチェック項目を写真とともに示している。鉛筆の持ち方の適切・不適切も写真で比較して確認できる。 ・「目標→考えよう・話し合おう→書いて確かめよう」という学習の手順が示され、活動内容が分かりやすい。 ・「考えよう・話し合おう」では、話し合いの過程が示されており、言語活動を仕組みやすい。 ・「書いて確かめよう」で、毛筆・硬筆ともに直接書き込む欄があるので、学習内容を確認しやすい。 ・学習内容ごとに「生活に生かそう」のページがあり、具体的な学習活動が示されている。 ・毛筆手本数が少ない。3年生では、書き初めを除くと大きい毛筆手本がない。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の姿勢についてのチェック項目が写真（横向き）とともに記載されている。 ・「目標→試し書き→考えよう→生かそう→まとめ書き→振り返ろう」という学習の手順が示され、基礎・基本の習得から生活での活用場面まで考えて学習させることができる。 ・手本の文字が平明である。 ・部首別に常用漢字が掲載されており、字形の似た漢字を確認したり、部首を組み合わせで掲載されていない漢字を書いたりすることができる。 ・「学習を生かして書く」課題が各学年に設定されており、書写を生活で生かす例が挙げられている。 ・原寸サイズの手本は、1年生の楷書の最初だけである。 ・「資料編」のページはない。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆の姿勢と構え方が写真（横と正面）とともに記載されており、チェック項目がある。 ・「目標→学習の窓→筆写→学習を振り返る」という学習の手順が示され、活動の見通しを立てやすい。 ・「行書と楷書の使い分け」など活動のページは、イラストや写真が用いられ、直接書き込みなどでもできるようになっており、使いやすい。 ・「情報を集めて整理する」「情報を発信する」など、情報を利用する活動例や学習活動の説明が詳しいので、実行しやすい。 ・「資料」が50ページもあり、国語科の言語活動や総合的な学習の時間と関連付けて、学年や段階に応じた多様な活用ができる。 ・3年生の手本数が少ない。また、単元の内容も少なく、不十分に感じられる。

中 学 校 社 会 (地理的分野)

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・竹島、尖閣諸島、北方領土についての特設ページが設けられており、位置だけでなく島の様子まで文で示されている。(P132～135) ・地理の学習を進める上での基礎的・基本的技能を習得する「スキルアップ」のコーナーが随所に設けられている。(P4に一覧表があり、利用しやすい) ・「日本の諸地域」(P179～)の7つの地域全てにおいて、地域の追求テーマが具体的に設定され、そのテーマに沿って学習が進み、学習したことをもとにテーマをまとめる設問が設定されている。(例えばP195「中国・四国地方の追求テーマは」→P201「中国・四国地方の学習を振り返ろう」問③) ・ほぼ全ての節の終わりに「深めよう」のページがあり、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて、生徒の主体的な学びを促している。(例えばP71など) ・小学校との接続を意識し、各章の最初のページで小学校での学習内容を想起させる配慮がある。(例えばP5, P21, P43 右上のキャラクターの吹き出しなど) ・「日本の諸地域」において、九州、近畿地方など各地域のテーマ設定の流れが、他社より具体的で分かりやすい。(例えばP183の後半にある「九州地方の探究テーマは？」を参照) ・「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。(例えばP62からのヨーロッパ州参照)
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界各地の人々の生活と環境」の章(P26～P35)では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。 ・各節に1箇所程度「読み解こう」のコーナーを設け、生徒が自主的に学習できるよう工夫している。(P55, P65, P71など) ・ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載され、生徒の主体的な学びを促している。(例えばP81など) ・第1編第2章で、各気候帯の特色を知るため雨温図が掲示されているが、日本の雨温図が併記されていないので、気候の特色をイメージしづらい。(例えばP31 図③) ・「世界のさまざまな地域の調査」(P112～)の内容が具合性に欠け、調べ学習のイメージがわきにくい。 ・「災害への備え」(P148, P149)の内容はあるものの、特集ページを組んでいる他社と比較すると、防災に関して内容面で見劣りする。 ・他社と比べて、本文中に出てくる用語に対する関連ページの指示が少ない。学習内容を互いに関連させながら習得していく上で不利。(例えばヨーロッパ州の「自然の特色」(P68, P69)の部分を他社と比較すると、東書12箇所、教出5箇所、帝国10箇所、日文7箇所)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・北方領土周辺の国境の変遷が地図でわかりやすく提示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることが分かりやすい。(P126-127) ・「世界の諸地域」では、各州に住む人々のエピソードが掲載されており、そこで生活する人々の生活をイメージしやすい。(P46, 53, 67, 70, 80, 96, 107) ・「世界の諸地域」の各州の最初に、各州を概観するページを設け、これから学習する地域へのイメージ作りに役立つよう工夫されている。(例えばP50-51) ・第1部第1,2章、第2部第1,2章では、単元の終わりに「振り返り」のページがなく、単元の学習内容の基礎・基本を振り返るのに不便。 ・第1部第3章「世界の諸地域」の各節の節末に発展的課題が設定されていないため、生徒の主体的な学びに結びつきにくい。 ・「世界の諸地域」において、各州に気候分布図が掲載されていないため、農業分布の特色を理解しづらい。(例えばP52からのヨーロッパ州参照) ・巻末に用語解説がないので、難しい用語に遭遇したとき、生徒が学習内容を理解する上での妨げとなる可能性がある。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界各地の人々の生活と環境」の章(P14-23)では、それぞれの気候帯ごとに気候分布図が示されており、場所と気候の特色を関連づけて理解するのに適している。 ・北方領土周辺の国境の変遷がわかりやすく図示されていて、北方領土が一貫して我が国の領土であることが分かりやすい。(P118) ・ほぼ全ての節末に、その節のテーマに関わる発展的な内容が掲載されていて、生徒の主体的な学びを促している。(例えばP78) ・ページ下部の「矢印」マークで、小学校で学習した内容を想起させるよう工夫している。(P2, 4, 13など) ・巻末に「日本の世界遺産」が掲載してあり、興味をもちやすい。 ・使用するグラフとその解説が離れた場所にあって見づらい。(P15の「雨温図」とP14の「雨温図の読み取り方」)

中 学 校 社 会 (歴史的分野)

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容が第1章として設けられている。絵・イラストと振り返りのヒントがある。P10, P11には振り返り方の設問がある。 ・重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句には全てふりがながある。 ・語句の解説は、量が少ない。 ・毎時間ごとに課題とまとめが提示されており、そのつながりもある。 ・十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容(本文)がある。(P100・P101・P146) ・防災について、詳しく資料を載せてある。 ・資料には番号があり、本文の内容との関連を示す表記がある。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習内容は、第1章として設けている。取り上げている分量は少ない。時代ごとではなく、西暦で区切って振り返り方の設問が少ない。 ・毎時間課題提示があり、課題とまとめが関連性もある。 ・章初めの資料が少ない。 ・十字軍, ルネサンス, 絶対王政の内容がある。(P88・P89・P132) ・章の初めに資料はあるが少ない。学習する時代の年表もあるが簡素である。 ・防災について特に取り上げていない。 ・資料には番号があり、本文の内容とのつながりを示す表記がある。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りが冒頭部分にあるが、分量が少なく一つ一つの絵に対しての解説や考えるヒントがない。また、章として設定されていない。 ・学習内容が難しい。P134懐徳堂 P220霧社事件など ・毎時間の学習課題「まとめてみよう」が提示されているが、その関連性が薄い。 ・十字軍の語句は本文にあるが(P91), 内容が少なく資料付きの解説として記載されている。(P61) ルネサンスの内容と絶対王政の内容が少ない。 ・古代では、人類誕生→日本(先時・縄文)→四大文明→日本(弥生)の配列になっている。 ・防災について、詳しく資料を載せてある。 ・資料は番号をつけているが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りが第1章として設けてある。(P2・P3・P4) ・重要語句にふりがながあるものもないものがある。また、語句の解説は少ない。 ・学習課題は毎時間提示されている。課題とまとめの関連性では、教科書本文からまとめる方法と説明する方法の2種類を提示している。 ・まとめ方として、年表・資料・地図が提示されている。まとめ方の提示も種類が多い。 ・章の初めの資料はない。 ・十字軍, ルネサンスの内容が本文にある。絶対王政の語句・内容がない。 ・防災について取り上げているが、量は少ない。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りが、第1編として設定されている。P7・P8に絵・イラスト・ヒントなどが時代ごとにある。 ・重要語句についてゴシック体で明らかにしている。その語句は全てふりがながある。また、語句の解説も多い。 ・まとめ方として年表, 地図を使った作業を提示している。あるひとつの視点に着目したまとめ方になっている。 ・十字軍, ルネサンスの内容はあるが、絶対王政の内容がない。 ・防災について、詳しく取り扱っている。 ・編の初めに大きな資料を示している。また、取り扱う時代の年表と世界の地図資料がある。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りについて、P16に人物名が並べられているが、絵・イラストはない。振り返りの方法は「人物カードづくり」である。 ・課題について毎時間提示があり、課題とまとめの関連性もある。 ・章末のまとめ方の内容が少ない。まとめ方のヒントになる年表, 図, 資料などが無い。 ・十字軍・ルネサンス・絶対王政の記述がない。 ・防災について、取り扱っている。 ・資料に番号がない。本文の内容とのつながりを示す表記がない。

育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りについて序章として扱っているが内容が少ない。(P9) ・まとめ方として年表・地図・資料を提示している。その種類も多い。 ・章の初めの資料が多く工夫がある。(海洋国家、鳥の目、虫の目) ・章の初めに資料があり、「歴史絵巻」というタイトルで流れをとらえる工夫をしている。 ・防災について取り扱っていない。 ・資料には番号があるが、本文の内容とのつながりを示す表記はない。
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の振り返りについて冒頭にあるが量が少ない。 ・重要語句についてゴシック体がなく定着しにくい。 ・各単元に課題の提示がされていない。 ・章末のまとめ方の例が少ない。 ・絶対王政、ルネサンス、十字軍の記述が本文中にない。 ・防災について、詳しく取り扱っている。 ・資料に本文と関連する表示がない。

中 学 校 社 会 (公 民 的 分 野)

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。 ・単元の終わりに「学習を確認しよう」という学習内容の定着を図る課題が配置されている。 ・「公民にチャレンジ」、「インタビューコラム」、「深めよう」を設け、小集団による話し合いなどの活動の工夫が図られるようになっている。 ・コンビニエンスストアの経営者としてのシミュレーションや環境問題についてのディベート学習など、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。 ・写真・グラフ・表等の刷新が図られていて、その種類も豊富である。 ・領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。 ・地図や現代史年表、重要語句の解説が添付されている。 ・毎時間の「確認」マークのところで、キーワードを示し、「箇条書きでまとめよう」など言語活動を意識した課題設定がされている。 ・章の始めと終わりに、その章での学習についての課題が設定され、まとめる、書く、意見を発表するなどの活動が仕込まれている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。 ・単元ごとに「学習のまとめと表現」があり、学習内容の定着を図る課題が配置されている。 ・学習の流れに即した「読み解こう」のコーナーを設け、グラフや年表、資料の読み取りや考察など、思考力や判断力の育成を重視している。 ・見開き最後に課題「ふりかえり」を設け、学習の振り返りや発展的な考察を求める課題を提起し個に応じた学習に取り組める工夫がなされている。 ・平和主義についての記述が多く、シビリアン・コントロールや各国の憲法が掲載されている。 ・世界地図、現代史の年表が組み込まれている。 ・各章に1つ、言語活動についてのテーマが設定され「ディスカッション」、「ディベート」「プレゼンテーション」等様々な方法が例としてあげられている。 ・「特設ページ」という言語活動を意識した、内容を深化させるような課題の設定がされている。
清水	<ul style="list-style-type: none"> ・全編で「深める公民」という資料ページが設けられ、手記、統計資料、図、表などが提示され、生徒のまとめ、学習の整理、課題解決のための材料として活用できる。 ・領土問題については、個別の問題についての文章記述はある。 ・憲法第9条や自衛隊との関係など平和や安全保障に関して様々な面からの記載がある。 ・世界地図、現代史の年表が添付されている。 ・既習内容を活用して解決していく課題が設定されている。 ・裁判員裁判のシミュレーション学習等の課題解決学習が少ない。 ・写真・新聞記事が少ない。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。 ・単元の終わりに「学習をふりかえろう」という学習内容の定着を図る課題が配置されている。 ・テーマについての賛成・反対意見を載せた「Yes No」という欄や「技能をみがく」という自分の意見をつくるための工夫が見られる。 ・国際社会についての記述が多く、領土問題についても一定の記述はある。 ・第二次世界大戦後の年表が添付されている。 ・グラフや地図は、色調の違いや地紋を用いることで判別しやすくしている。 ・章末には、「学習をふりかえろう」が配置され、言語活動を意識した課題が設定されている。 ・見開きごとに「説明しよう」が設定され、表現力の育成が図られている。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに、課題とまとめが設定されている。 ・「学習の整理と活用」という学習内容の定着や活用のための問いがあり、地理的分野・歴史的分野との関連を図った学習が配列されている。 ・各編の初めに「ナビ」をおき学習の見通しをもたせ、各章に課題解決学習をおいている。 ・各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。 ・世界地図、現代史の年表が添付されている。 ・見開きごと「学習の活用」が配置され、具体的な説明（文章や箇条書き）が求められる問いとなっている。 ・各章に「チャレンジ公民」「情報スキルアップ」「アクティビティー」「学習の整理と活用」という課題解決の設定がされている。

自由社	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりに「学習のまとめと発展」として、重要語句の確認、紹介する主な人物と発展的な課題が設定されている。 ・9条についての解釈が4つ詳しく掲載されている。 ・年表が充実している。 ・領土問題については、見開き2ページで扱っている。 ・憲法第9条の解釈を4つ掲載している。 ・章末の「学習のまとめと発展」のところでは、既習内容を整理する課題を設定している。 ・「発展」として、各章にかかわる4つの課題から1つを選択し、400字でまとめる発展的な学習が提示されている。 ・1時間の終わりに学習のまとめが掲載されているが、生徒自身の課題として扱いにくい。 ・太平洋戦争における加害や集団的自衛権の記述が明示されていない。 ・さまざまな学習方法について、その手法はほとんど提示されていない。 ・裁判員裁判のシミュレーションがない。 ・地図・写真・新聞記事が少ない。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページの学習の課題が明示されている。 ・「理解を深めよう」で多様な観点を示しながら本文と関連した事項についての情報の提示がなされている。 ・学習方法の提示「考えよう」「やってみよう」等の課題解決学習がある。 ・領土問題について、歴史的背景・地図・写真・新聞記事が詳しく提示されている。 ・各国の憲法の平和に関する条文が掲載されている。 ・各章末に「学習のまとめ」が1ページ置かれ、そこには、「課題についての自分の意見をまとめ、意見交流する」という言語活動を意識した設問が提示されている。

中 学 校 地 図

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連するページが「ジャンプ」として示してあり、生徒が複数の資料を関連づけて考えるのに役立つ。(例えばP31図②, 32図③など) ・ 地図帳の基本的な見方や使い方について、言葉による指示が多く、扱いづらい (P6) ・ ヨーロッパ、南アメリカ、オセアニアの基本図に、同緯度の日本列島が掲載されていないので、緯度のイメージがつかみにくい。(P39, P64, P69) ・ 地図記号の凡例の区分が小さく、見づらい。また、地図記号以外のものも掲載しているため、全体に窮屈で見にくい。(P4) ・ ヨーロッパの基本図にヨーロッパとアジアの境界線が表記されていないので、説明しづらい。(P40)
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳の基本的な見方や使い方が、すっきりしていて見やすい。(P6) ・ 「地図を見る目」を通して、地図を活用して主体的に学習を進められる設問が設けられている。(例えばP40など) ・ 東アジアと日本との歴史的関係を表した地図が示されており、生徒に歴史的分野での学習内容との関連を意識させるよう工夫されている。(P31, P103など) ・ ヨーロッパ、南アメリカ、オセアニアの基本図に、同緯度の日本列島が掲載されており、緯度のイメージがつかみやすい。(P46, P66, P69) ・ 巻末の統計資料が他社より詳しく、視覚的にも見やすい。(P156～) ・ 地図記号の凡例が一頁全部を使って示されているため、他社よりゆったりして見やすい。また、地図記号の区分も大きく見やすい。(P4) ・ 世界と日本の諸地域の導入ページにある「大観図」が、イラストなどを多用することで、他社よりもその地域のイメージをつかみやすいものになっている。(例えば帝国のP21と東書のP21を比較) ・ 「やってみよう」のコーナーを多数設けて、地図を活用した言語活動を促している。(例えばP62など)

中 学 校 数 学

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・例題のねらいが書かれていない。 ・平方根の章内に素因数分解があり、利用しにくい。 ・方程式を利用する問題では、代金、速さ・時間・道のり、過不足、比例式の6種類を線分図、絵、表を用いて理解を助ける表記になっている。 ・「学び合い」のページで式や図などを使って考えを説明し伝え合い深めていく課題が取り上げられ、側注に問題解決の進め方が示されており、学び方が身につくようになっている。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題が例題を用いて解く形式であり、利用しにくい。 ・扉の内容と内容の第1ページ目が違うテーマになっている。近似値から学習が始まっているので、生徒は困難さを感じやすい。 ・章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。 ・例題の側注に「見いだそう」「利用しよう」「伝えよう」の印で数学的活動の課題が示されているが、数が少ないので取り扱いにくい。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーラーキャッチ(※)で学習を進めている。生徒の操作活動(実験)を通して資料を収集し、それらを用いて学習の流れを作っている。また、広島県の人口がテーマの問題がある。 ・図が詳しく(コンピューター画面を設定)、その証明も掲載し、さらに発展的な問題も加えている。 ・等式の性質、不等式の説明から方程式の解き方まで例題13問で丁寧に理解を導く表記になっている。 ・各章に1つずつ「見つける」「活用する」「伝える」の印で数学的活動の課題が示されている。さらに模範的な説明が例示されていたり、話し合いの内容が提示されていたりしているので、考え方を説明する手順や方法が学びやすくなっている。 <p style="text-align: center;">※ 落下する定規を使い、つかんだ位置が長いか短いかを調べる実験</p>
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・問題が難易度に応じて「問」と「たしかめ」の2種類に分けて設定されている。また、「たしかめ」の横に補充問題のページも書かれている。 ・各領域の学習後の章末に基本的な内容の練習問題(2ページ)があるが、章末問題は「基本・応用・活用」の区分がなく利用しにくい。 ・方程式の解き方の理解を図るために、等式の性質から分数の方程式まで例題11問を使って導く表記になっている。特に、式の中の移項のときには色を付けて表現している。 ・「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は13問で、答えだけでなく考え方を説明させる問題が多いが、あまり深く考えさせる問題ではない。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・紙コプターで学習を進めている。生徒の操作活動(実験)を通して資料を収集し、それらを用いて学習の流れを作っている。また、活動しやすいように、付録がついている。 ・「数学展望台」や「千思万考」など、学習したことを活用するうえで、資料が豊富である。 ・方程式の意味から、等式の性質や移項を利用して、分数の方程式を解くまで例題11問で丁寧に理解を導く表記になっている。特に、式の中の移項に色を付け、説明まで表記している。 ・「みんなで話し合ってみよう」「自分のことばで伝えよう」「自分の考えをまとめよう」のマークが課題や問いについており、数学的活動が示されている。授業の中で取り扱いやすい問題が多い。
数研	<ul style="list-style-type: none"> ・発展問題にマークをつけてあり、利用しやすい。 ・章末に、章で学んだ内容を振り返るページがあるが、応用問題、活用問題がやや少ない。 ・素因数分解が式の計算の利用の後にあり、利用しにくい。 ・「文字式」で、考え方を説明する例題や問題の数は2問であり、数が少ない。

日文	<ul style="list-style-type: none">・素因数分解が式の計算の利用の後にあり，利用しにくい。・方程式を利用する問題では代金，速さ・時間・道のり，過不足，比例式の6種類を線分図，絵，表を用いて理解を助ける表記になっている。ただ3問しか答えの表記がない。・初出の用語を使った表現の具体例を「表現の例」として示されているので，数学的な表現の方法が身に付くようになっている。・各章に「見つけよう」「生活への利用」「説明しよう」という数学的活動が示されているが，数が少ないので使いにくい。
----	---

中 学 校 理 科

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・1年は内容が精選され、文字サイズが大きく読み取りやすい。 ・「科学の本だな」で学習内容に関連した図書の紹介があるとともに、「どこでも科学」で、生徒自身が手軽に行える活動やものづくりが紹介されており、興味・関心の高まりや学習の深まりにつながられている。 ・各学年の巻頭に探究の流れが示してある。特に「学びを活かして考えよう」が小単元末にあるが、課題の着眼点がよく、生徒が意欲的に学習する上で意欲の向上につながる。 ・既習事項の確認として、章の始めや途中で「これまでに学んだこと」「～で学んだこと」として示されている。他教科で学んだことも記載されている。 ・単元ごとの最初のページでは、1ページの写真があり、before afterとしてその単元での課題を単元最後のページにも提示することでまとめを自らできるようにしてある。 ・実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。 ・主に考察場面での話し合い活動について、学びを活かして考えようという項目で話すマークとともに記されており（1年生 22, 2年生 22, 3年生 15）、実験の後の考察での話し合い活動を明示している。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多く、生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。 ・各学年の巻頭に探究の学習過程が示されており、各単元末の「終章 学んだことを活かそう」を通して探究学習を進めることができる。 ・校外施設の活用について、各学年の巻末の「Let's go 科学館・博物館」で各地の博物館の紹介がある。（1年生 5, 2年生 5, 3年生 11）また、1年生で国内の全ジオパーク（32）、2年で動物園・水族館（31）と数多くの施設が紹介されており、中国地方の施設も広島県内の1つ（安佐動物公園）を含め3つが紹介されている。 ・発展的な学習の取扱い数が他社と比較して多すぎる。（1年生 25, 2年生 44, 3年生 43） ・単元ごとの最初のページでは、1ページの写真があり、身近に見られる生物の美しい写真を使用している。 ・目に見えない力の単元のはじめでは2つの力が一直線上でつりあっていることを具体的にイメージのしやすい写真を1点いれている。また、2つの力の合成と分解の章では、写真1点を提示している ・実験結果のページの中で実験結果と本文と写真を見る場合に、目線の動きが縦方向と横方向に交差してとらえ難いところがある。 ・主に考察場面での話し合い活動について、話し合ってみようという項目（1年生 3, 2年生 5, 3年生 4）は少なく、考察するようはっきり明示していないところがある。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の結果例「実験結果の例」「観察結果の例」が多く、生徒が参考にしすぎてしまう恐れがある。 ・校外施設等は読み物資料等の中で紹介されているが、取扱い数がとても少ない。 ・各学年の巻頭に探究の学習過程が示されており、「チャレンジ」を通して探究学習を進めることができる。 ・巻末資料が充実している。（1年生 7ページ, 2年生 14ページ, 3年生 17ページ） ・目に見えない力の単元のはじめでは、2つの力が一直線上でつりあっていることが具体的にイメージのしやすい写真2点を提示している。また、2つの力の合成と分解のところでは、写真2点を提示している。 ・実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。 ・主に考察場面での話し合い活動について、活用・表現や考察において話し合ってみようという見出し（1年生 10, 2年生 9, 3年生 8）が付けられている場合もある。

<p>教出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な実験・観察は「図」「活用しよう」で示されているが、提示の仕方が分かりにくい。 ・読み物資料「ハローサイエンス」では、複数のマークが付けてあるものやマークが付けてないもの、「ハローサイエンス」と明記されていないものがあり、学習内容との関連がわかりにくいものがある。学年や単元による取扱い数の差が大きい。 ・1年生の巻頭に探究の学習過程が示されており、「活用しよう」を通して探究学習を進めることができる。 ・巻末資料（1年生 4ページ、2年生 4ページ、3年生 7ページ）は少ない。 ・目に見えない力の単元のはじめでは、2力の合成や分解を理解しやすい写真を1点提示している。単元で2つの力が一直線上でつりあっていることを学習した後に、2力のつりあいが具体的にイメージしやすい写真を1点いれている。 ・実験結果の写真では、変化の様子が矢印で示されており、配置も分かりやすい。 ・主に考察場面での話し合い活動について考えようと活用しようという見出し（1年生 0、2年生 1、3年生 3）があるが、考察場面での話し合い活動を明示していない。
<p>啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイノートが付随し授業で活用できる。しかし、教科書と重複する内容が多い。 ・1年生「身のまわりの物質 いろいろな物質とその性質」の単元内において探究の学習過程が示されており、「考えてみよう」を通して探究学習を進めることができる。 ・各学年の巻末の「地域・環境資料集」で、各地域の特徴的な自然事象や施設等が数多く紹介され、地域教材の参考にできる。県内の施設も2つ（広島市子ども科学館、安佐動物公園）紹介されており、興味・関心を高めるものになっている。 ・巻末資料が充実している。（1年生 11ページ、2年生 7ページ、3年生 27ページ） ・各学年巻頭写真に美しい写真を提示してあり、興味を抱かせるのに有効である。 ・目に見えない力の単元のはじめでは、後に学習する2力の合成や分解の写真を2点提示している。 ・主に考察場面での話し合い活動について考察場面において考えてみようという見出し（1年生 2、2年生 1、3年生 1）はあるが、話し合い活動を明示していない。

中 学 校 音 楽 (一 般)

発 行 者	意 見
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの柱で教材（楽曲）を構成し、各教材（楽曲）に学習のねらいが2つずつ示されているが、構成や配列の意図が分かりにくく、1曲の学習のねらいが多い。 ・ 歌唱の基礎・基本の定着を図るために、変声期の指導や我が国の伝統的な歌唱の発声を取り上げており、創作では直接書き込みができる工夫がある。 ・ 鑑賞において、感じ取ったことを直接書き込む工夫がある。 ・ 鑑賞において、表現との関連が図られているが、専門的な知識がないと活用しにくいものがある。 ・ 興味・関心を高める工夫はあるが、主体的に学習に取り組むための説明やアプローチがあまり見られない。 ・ 歌唱教材に、自分の思いや意図を伝え合う活動が示されていない。 ・ 発展的な学習のための学習方法やポイントが分かりにくい。 ・ 写真のイメージが強すぎる。折り込みは扱いにくく破損しやすい。
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域ごとに学習指導要領の指導内容を柱として教材（楽曲）が構成されており、各教材（楽曲）にも学習のねらいが焦点化して示されている。 ・ 歌唱及び創作の基礎・基本の定着を図るために、段階的に学習する工夫や継続して取り組むための手掛りがある。 ・ 歌唱教材は多いが、楽曲の特徴やよさを感じ取りにくい。 ・ 鑑賞においては、表現との関連を図る工夫があり、演奏体験を通じた深まりのある学習ができる。 ・ 主体的に学習に取り組むために、生徒の学習意欲を喚起する情報が豊富で具体的な手掛りが示されている。 ・ どの領域にも自分の思いや意図をもち、意見を発表し合う活動が多く仕組みられている。 ・ 発展的な学習へのアプローチがある。 ・ 写真やイラストが効果的である。

中 学 校 音 楽 (器 楽 合 奏)

発行者	意 見
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が教材（楽曲）ごとに示されているが、抽象的で分かりにくい。 ・ 器楽の基礎・基本の定着を図るための、基礎的な知識の説明や奏法の示し方がきめ細かく分かりやすい。 ・ アルトリコーダー、箏、篠笛による創作の教材を取り入れている。 ・ ソプラノリコーダーからアルトリコーダーへの移行のための工夫がある。 ・ 主体的に学習に取り組むために、親しみやすい楽曲や多様な楽器でのグループ演奏の工夫がある。 ・ ギターのタブ譜（※2）、五線、鍵盤の併記は、自学自習に効果的である。 ・ 塩ピ管で横笛を制作する方法が記載されており、授業外でも楽しめる。 ・ 発展的な学習へのアプローチや内容が分かりにくい。 ・ 折り込みは扱いにくく破損しやすい。 ・ 自分たちの演奏について紹介するための手掛りがある。 <p>※2 弦楽器用の譜面</p>
教芸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 領域ごとに学習指導要領の指導内容を柱として教材（楽曲）が構成されており、各教材（楽曲）の学習のねらいも具体的で分かりやすい。 ・ 器楽の基礎・基本の定着を図るための、基礎的な知識の説明や奏法の示し方が分かりやすい。 ・ 創作の教材は箏だけである。 ・ アルトリコーダーのための教材（楽曲）が少ない。 ・ ラテン楽器（※1）の奏法や教材（楽曲）を取り扱っている。 ・ 主体的に学習に取り組むために、創作を取り入れたグループ活動がある。 ・ 楽器ごとに発展的な学習への取組があり、生涯学習へのアプローチもある。 ・ 映画・ポピュラー音楽等のアンサンブル（合奏）の教材（楽曲）が豊富である。 ・ グループ演奏において、話し合いながら工夫するよう示されている。 <p>※1 カウベル（打楽器ベル）、ボンゴ（手打ち小太鼓）、コンガ（手打ち大太鼓）等</p>

中 学 校 美 術

発行者	意 見
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載されている生徒作品の数が多く、多様な表現に触れることで生徒の表現活動の手助けになる。 ・題材ごとにページの最後に「ふりかえり」があり、生徒が自ら考える手助けとなる。 ・近年話題となった日本の出来事に関連したことが掲載されている。 ・作者のコメントは多いが、その多くが生徒の言葉で、50字以内の短文である。 ・制作する上での意欲づけにつながる生徒作品が多く掲載されているが、美術1での作家の作品数が少なくバランスに欠ける。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゲルニカ」など、生徒たちが有名な絵画と出会うとき、とても大切な要素である作品の色が他社よりも本物に近く再現されている。 ・制作過程を丁寧に載せてある。また、「みんなの工夫」でそれぞれの段階での考えが書いてあり、多くの生徒の参考になる。 ・生徒が作品と出会うとき、情報と鑑賞作品を分けることによって、先入観を持たせない工夫がなされている。 ・美術2・3の巻頭をはじめ、生徒の生活と美術との関わりが整理されており、生徒がより美術を身近に感じられる工夫がされている。 ・作家の作品の割合が高いために、生徒作品の数は他社より少ない。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書のサイズが他社よりも大きく、その分作品を詰め込んだような感じがなくゆとりがある。 ・仏像に関する内容が他社よりも充実している。修学旅行に向けた学習と関連付けて学習することができればより深い作品理解につながる。 ・浮世絵を取り扱うページは紙質を変えるなど、日本の良さや伝統文化を感じさせるための工夫がされている。 ・生徒が制作のイメージをもつための、「作家に関連する写真・鑑賞風景」や「生徒の活動・活用風景」が3社の中で最も少ない。 ・鑑賞作品に対する情報量が多く、生徒が自由に感じ取ろうとする妨げになる。

中 学 校 保 健 体 育

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている語句のほとんどが目次に掲載されており、各章末に「確認問題」や「自己評価確認欄」を設けている。 ・「読み物」や「章末資料」で具体的な説明をしたり、先輩からのメッセージを掲載したりするなど身近に感じさせる工夫をしており、実生活・実社会へと発展させる工夫もされている。 ・見開き2ページが1単位時間の量で、学習内容を理解しやすい資料が豊富に掲載されているが、本文や資料のレイアウトが統一されていない。 ・導入と学習内容が関連付けられており分かりやすい。学習を深めるポイントをイラストで示し、クイズや章末資料を活用したり、論理的思考を高めたりする工夫がされている。 ・巻頭で、学習方法を紹介しており、学習活動の中で言語活動に係る学習活動を促す工夫が見られる。章末には考えを記述する場面を設定している。
大日本	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れが確立されているが、目標としてはわかりにくい。単元によっては「学習を活かして」が発展的なものとなっていない。 ・章末資料では身近に感じさせる工夫がされているが、導入でしっかりとした思考が必要とされるので、生徒の興味・関心を十分引きだすことができないように感じられる。 ・資料が占める割合が50%以上であり、本文の内容が若干不十分である。字間や行間が適当で文章は読みやすいが、色使いがシャープで冷たい感じを受ける。 ・学習内容と関連した「リンク」や「ミニ知識」が表記され、過去の経験や知識を活用する場面を設定している。学習の目標を達成するための資料は豊富で活用を図る工夫がされている。 ・話し合いや自分の考えをまとめる言語活動に係る学習活動を促す工夫はされているが、書く学習活動につながる工夫が若干少ない。
大修館	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の提示からまとめまでの学習の道筋が、シンプルである。 ・生徒の身近な内容や過去の経験を活かした思考ができるように工夫がされているが、実生活や実社会へと発展させるという意図が強く感じられない。 ・本文の幅や配置、資料、補足説明などの配置も統一感があって非常に見やすい。本文の背景がクリーム色で読みやすく分けてあり、視覚支援が必要な生徒には効果的である。 ・本文と関連付けがなされた写真と資料が掲載され、読み取るポイントが明確で、分かりやすい。活用の場が準備され、実践に向けて、思考を膨らませる内容となっている。 ・「クエスチョン」が答えやすい問いかけになっており、自分の考えをまとめて記述したり、仲間と話し合って自分の考えを説明したりできるよう工夫がされている。
学研	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の始めに学習することが掲載されており、「学習の目標」「キーワード」で学習課題を提示している。 ・導入で身近に感じさせる工夫をし、習得した知識や技能から体験的な学習の場面につなげる工夫が概ねされている。章のまとめも実生活・実社会へと発展させようとし ・教科の専門的な用語も分かりやすく記述されており、本文と資料の量や配置のバランスもよく、統一感があり見やすい。見開き2ページが1単位時間の中で終了する量 ・本文との関連付けされた、たくさんの資料が掲載されており、効果的である。学んだことを生かし、より深められるように工夫されており、論理的な思考の深まりが期待できる。 ・学習の中に自分の考えをまとめたり、深めたり、学び合ったりする場面が工夫され、章のまとめで自分の考えを記述する欄が多く設定されている。

中学校技術・家庭（技術分野）

発行者	意 見
東書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに目標がページ上部に明記してある。 ・各内容の終わりに振り返りがあり，ABCで評価するだけでなく，評価問題が設定されており，総括的に理解度がチェックできる。 ・目標の表記が小さく目につきにくい。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の匠というコラムを設け，伝統的な技術等について解説している。(P61, P73 など) ・歴史の変遷に関する年表がなく，体系的にとらえにくい。 <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の評価・活用でグラフや写真等を活用して書かれている。(P84～88, P140～144) ・ガイダンスに省資源，省エネルギーに関する記載がある。(P11) <p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスにおいて「夢」をキーワードに技術の価値や学ぶ意義について解説している。(P6～7) ・写真も豊富にあり，実際に生徒が作成した作品を本人とともに写真で紹介し，身近に感じさせている。(P38) ・写真も豊富にあり，大きく見やすい。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめに「生活にいかそう」の欄があり，生活を活かす視点から振り返る項目がある。 <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習例が豊富であり，生徒が主体的に製作・実習を行うことができる。 <p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの内容が質・量とも充実している。(12ページ分) <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な内容は，B（エネルギー変換）で3か所。(P128, P129, P131) <p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「リンク」「安全」「環境」など17種類のマークで表示。 ・ワイドな書面で写真や図の大きさも十分である。 <p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A（材料と加工）とB（エネルギー変換）に評価活用シートが記載されている。(P89, P145) ・学習の振り返りでは，ABCの3段階評価であり，文章での記述は求められていない。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まとめよう」「考えてみよう」のコーナーにおいて，企画書やグラフを用いて考えをまとめるように示されている。(P127, P143)

教図

(1) 基礎・基本の定着

視点1

- ・学習目標が、単元の初めに長い文章で表現されており、授業ごとの明確な目標は示されていない。
- ・章末問題はあるが、自己の学習を振り返る項目はない。

視点2

- ・伝統に関する内容が少ない。(特に材料と加工法)

視点3

- ・材料と加工 (P23, P61) エネルギー (P99, P140~143) 生物 (P152, P155~199, 196~199) 情報 (P254~259) にグラフや写真等を用いて記載してある。
- ・ガイダンスに環境問題に関する記述がある。(P5)

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点1

- ・巻頭にガイダンス的内容が記載されている。
- ・コラムを設け、トピック的な話題を提供している (P194) ものの量的には少ない。

視点2

- ・生活への活用を促す記載がない。

視点3

- ・実習例が少なく、生徒が主体的、実践的、体験的に学習する機会が少ない。

(3) 内容の構成・配列・分量

視点1

- ・ガイダンスの内容が質・量とも不十分である。(6ページ分)

視点2

- ・発展的な内容は、B (エネルギー変換) で2か所、D (情報) で1か所。(P103, P113, P248)

(4) 内容の表現・表記

視点1

- ・4つのマークの意味が記載されているのみである。(P11)
- ・B 5サイズにもかかわらず空白が多く、情報量が少ない。

(5) 言語活動の充実

視点1

- ・評価・活用についてのワークシートの例示はない。
- ・学習のまとめは、問題形式であり、文章での記述は求められていない。

視点2

- ・「考えよう」のコーナーがある。(P254)

開隆堂	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習目標」と明確に表記され、本時の目標が明確に伝わる。 ・各内容の終わりや単元ごとに振り返りがあり、A B Cで評価するだけでなく、具体的な記述が求められ、形式的にも総括的にも理解度がチェックできる。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに年表や写真を活用して技術の歴史の変遷が書かれている。(P20～23, P92～93, P136～137, P176～177) <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習として「持続可能な社会」を築くためにはどうすればよいかを考えさせる構成となっている。(P248) ・社会・環境とのかかわりが内容ごとに設定され、グラフや写真等を活用して取り組みやすくなっている。(P84～91, P130～135, P170～175, P238～249) <p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスにおいて、学習の進め方や技術の素晴らしさが記載されている。(P4～19) ・「参考」というコラムを設け、技術的な知識を広げ、興味、関心を持たせる工夫がある。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的側面、環境的側面、経済的側面から考察できるようになっている。 <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習例が豊富であり、生徒が主体的に製作、実習を行うことができる。 <p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの内容が質・量とも充実している。(18ページ分) <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な内容は、B(エネルギー変換)で2か所。(P127, P129) <p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の目標」「探究」「発展」など15種類のマークで表示。 ・B5サイズの紙面にコンパクトにわかりやすくまとめてあり、情報量も多い。しかも軽量である。 <p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価・活用についてのワークシートを例示している。 ・学習のまとめにおいてA B Cの3段階評価に加え、文章で振り返り記述するようになっている。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えてみよう」「話し合ってみよう」において図や写真、表などを基に考えたり、説明したりする項目が設定されている。
-----	--

中学校技術・家庭（家庭分野）

発行者	意 見
東書	<p>(1) 基礎・基本の定着</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理の「基礎技能」が写真で分かりやすく提示されている。野菜の切り方も手順が分かりやすい。(P52～55) ・衣生活の「基礎技能」のほころび直し、スナップ付けが丁寧で分かりやすく掲載されている。(P124～125) ・単元ごとに学習の目標とまとめが設定されており、おさえるポイントが明記してある。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和服の文化に触れよう」等では和服の写真や着付けの方法、地域に伝わる織物や文様など資料が豊富で、生徒の興味関心をひく内容である。(P108～111) ・「和食」についての資料が少ない。(P41) <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの単元の中に環境について考えるポイントが示されている。(「環境に配慮しましょう」マークの表示) ・「エネルギー消費を減らす方法を考えよう」では、ごく一般的な資料や記述のみで文字も多く、インパクトに欠ける。(P242～243) <p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭分野のガイダンスでは、中学校の学習の見通しが大変分かりやすく示されている。(P8～19) ・小学校からの学習のつながりが明確である。(P10～11) ・写真が鮮明で生徒関心意欲を高めるのに効果的である。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の概量を簡単に把握するための方法として、手ばかりや目ばかりの資料が掲載されており、分かりやすく工夫してある。(P36～37) ・調理実習の実習例が豊富で、写真の美しさ、手順の分かりやすさ等生徒が作ってみたいくなるよう工夫されている。(P60～87) <p>視点3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児と触れ合おう」では、幼児の表情豊かな写真がたくさん掲載されておりメッセージ性が伝わる。(P204～209) ・どの単元でも「探究」や「生活に生かそう」が取り上げられており、学習したことを実生活に生かし、実践力を高めるための工夫がみられる。 <p>(3) 内容の構成・配列・分量</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの内容が充実している。(P8～19) ・小学校家庭科や他教科とのつながりが明記してあり、さまざまな教科の学習と関連づけて考えることで家庭分野の学習が深まる工夫がされている。 ・BCADの順に配列されている。 <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻末には、「生活の課題と実践」のページがあり、学んだことを社会に生かすなどの内容が充実している。(P251～271) <p>(4) 内容の表現・表記</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資料」と「リンク」や「他教科」のマークで示してあり、深める内容や関連する内容が分かりやすい。 ・「資料：スポーツと栄養」など、生徒の興味を引きつける資料やデータが掲載されている。(P29) ・「豆知識」が、クイズや・×問題など、生徒目線で展開されており、生徒の興味・関心が高まる。 <p>(5) 言語活動の充実</p> <p>視点1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の観察記録カードの見本があり、観察する時のポイントが示されている。(P193) ・触れ合い体験のまとめ方の例があり、生徒がまとめる時の参考になる。(P211) <p>視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」に「まとめと発表の仕方」が示されている。 ・「言葉のページ」があり、衣食住生活でよく使われる用語についての説明がある。(P270～271)

教図

- (1) 基礎・基本の定着
- 視点1
- ・「学習のふり返り」では確認問題が單元ごとに設定されており、おさえるポイントが明確である。(例P60～61)
 - ・調理レシピは豊富であるが、基礎基本をおさえる調理実習としては内容の幅が広がりすぎている。(P116～133)
 - ・調理の基礎「包丁の扱い方」では、写真の配置が整理されておらず分かりにくい。(P106～107)
- 視点2
- ・「地域の食材をみつめよう」では、各地の郷土料理の写真や説明、実習例や資料が豊富である。(P134～141)
 - ・「ゆかたを自分で着てみよう」では、男性、女性の浴衣の着付けについて分かりやすく図示されている。(P182～183)
- 視点3
- ・章の初めの「宇宙から撮影した夜の地球の画像」は、内容的には良い資料であるが分かりにくく、生徒が課題意識を持ちにくい。(P259)
- (2) 主体的に学習に取り組む工夫
- 視点1
- ・項目の最初に「Q」のマークで学習内容の問いかけをしている。
- 視点2
- ・「住まいのはたらき」では、写真も豊富で、日本や世界の住まいの特徴が一目でわかる工夫がされている。(P150～153)
- 視点3
- ・「つくってみよう」では、布を使った題材を多く取り上げ、生徒が作ってみたいようになるよう内容にしている。また分かりやすい説明なので自分にもできそうだと感じられる。(P210～221)
- (3) 内容の構成・配列・分量
- 視点1
- ・A B C Dの順に配列されている。
 - ・小学校のふり返りがいないため、中学校家庭の学習の見通しが立てにくい。
- 視点2
- ・巻末は「家庭分野の学習をふり返ろう」が1ページのみで資料も少なく発展させにくい。(P272)
- (4) 内容の表現・表記
- 視点1
- ・「参考」「コラム」や「リンク」で内容に関連した資料や技術分野との関連が提示されている。
 - ・技術分野とのリンクはあるが、他教科との関連については示されていない。
- (5) 言語活動の充実
- 視点1
- ・幼児とのふれ合いレポートでは、レポートをまとめるためのポイントが示されている。(P57)
- 視点2
- ・「生活の課題と実践」について、それぞれの章末に実践例が分かりやすく示されている。

開隆堂	<p>(1) 基礎・基本の定着</p>
	<p>視点1</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「衣服の補修」では、スナップ付け、まつり縫いの写真が大きく取り上げられており、大変分かりやすく生徒の実践意欲につながる。(P187～189)
	<ul style="list-style-type: none"> ・「調理の基本」では、野菜の切り方が1ページにまとめてあるが、写真が小さく分かりにくい。(P97)
	<p>視点2</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「受け継がれる食文化」では、行事食や和食について、詳しく丁寧に掲載されている。(P134～135)
	<p>視点3</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら取り組むエコ生活」では、身近な例が分かりやすくまとめてあり、実生活と結びつけて考えられるように提示されている。(P236～237)
	<p>(2) 主体的に学習に取り組む工夫</p>
	<p>視点1</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・項目の最初に「話し合ってみよう」「振り返ってみよう」「考えてみよう」などが記されており、生徒の興味・関心を高める工夫がみられる。
	<p>視点2</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「実物の食品のおよその重さを知ろう」では、実物大の食品の写真が提示してあり、実生活でも活用することができる。(P75～77)
	<p>視点3</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「調理実習例にあと1品加えてみよう」では、プラス1として簡単に調理できるレシピや電子レンジを使った調理例などが掲載されており、実践につながる工夫がしてある (P124～125)
<p>(3) 内容の構成・配列・分量</p>	
<p>視点1</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・A B C Dの順に配列されている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のふり返りがないため、中学校家庭の学習の見通しが立てにくい。 	
<p>視点2</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に実践例はあるが、文字が多く扱いにくい。(P246～257) 	
<p>(4) 内容の表現・表記</p>	
<p>視点1</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「参考」「リンク」「探究」で内容に関する資料や、深めるための資料が提示されている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・「豆知識」が掲載されているが、文字が多く生徒の興味をひくものになっていない。 	
<p>(5) 言語活動の充実</p>	
<p>視点1</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ふれ合い体験レポート、幼児の世界の体験レポートでは、まとめ方の例が示されている。(P49) 	
<p>視点2</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活と課題の実践」について、探究方法の例やまとめ方が示されている。 	

中 学 校 英 語

発行者	意 見
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期は、「Hi, English!」(話す・聞く)と「Unit 0」(アルファベット)の二段階になっており、小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。 ・1年生の教科書では、Unitの中でspeakからwriteにつながる活動が設定されている。 ・単元数や分量は生徒の学習の負担を考慮してやや少なめにおさえている。また、各活動のページ上の配置が同じで分かりやすく、書き込みができるスペースがある等、指導者が様々な工夫をすることができる。 ・文法事項は「まとめと練習」でまとめてあり、構造的で分かりやすい。演習問題があり、理解度を確認できる。 ・4技能を総合的に活用させる言語活動として、Presentationと題した表現活動の単元が3年間で9個設定されている。そのすべてがスピーチ(発表)する内容のものであり、表現力の育成に効果的な題材である。 ・中学校最後の「Presentation」は、題材名「中学校生活」、主なモデル文は5文、55語、目標が「5文以上で発表」とやや目標設定が低い。
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期は「Let's Start」(話す・聞く)と「Program 1」(アルファベット)の二段階になっており、小学校の外国語活動から中学校英語への接続をスムーズにしている。 ・各活動の配置が分かりやすく、学習の手順や説明がくわしい。色使いも良い。 ・巻末に「できるようになったこと」リストがあり、自己評価ができるよう工夫されている。 ・4技能を総合的に活用させる言語活動として、各学年3回、「My project」が設定してあり、日常の学習がこの到達目標につながっている。各Projectは4ページ構成となっていて、手順を追って活動しやすくしてあり、仲間と協働し、推敲できるように工夫されている。 ・1年生の文法事項の配列においてBe動詞と一般動詞の区別がつきにくい。 ・基本文はBasic Dialogという対話文になっているが、本文とは異なる内容である。 ・単元数が最も多く、文の量や言語活動の量も多いので、生徒の負担となる。各Projectも4ページ構成になっており、内容が多く、十分に指導時間が確保できるか課題である。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期に「Pre-lesson」と「Let's start」があるが、区別が明確ではない。 ・Listenでは対話等を聞いて質問に答え、Speakで対話をペアで行う活動、ReadではReadingで読む活動を設定している。Writeで基本表現を含む文章を書く活動を設定しており4技能を定着できる。 ・4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が設定されているが、年5回と多く、内容も比較的多いので、十分に時間が確保できない。 ・一般動詞や複数形が1年生の最初に出てくるので、生徒には、負担である。
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期に「Get Ready」があるが、1ページに出てくる英単語の量が多い。 ・4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が3年間で9個設定されている。その内容は、5個がスピーチ(発表)で、残りはポスター作成、ディスカッションであり、種類が豊富である。 ・中学校最後の「Project」は、モデル文が文章表記されていないので、生徒にとってゴールの姿が明確ではなく、活動に取りかかるのに難しい。 ・錦織主選手の話、広島で被爆した佐々木禎子さんの生涯や、キング牧師のスピーチなど生徒に読ませたい題材が多い。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・入門期の1ページに出てくる語彙量が多く、本文の文字が小さく読みづらい。 ・Listenで適切な絵を選択したり、Speakで対話練習を行い、Readでは英語で回答、Writeで対話練習した英文を書く活動を設定するなど工夫している。 ・巻末にCan-Do自己チェックリストが付いており、巻末資料に工夫が見られる。 ・4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Project」が3年間で8個設定されている。中学校最後の「Project」は、モデル文が文章表記されていないので、生徒にとってゴールの姿が明確ではなく、活動に取りかかるのに難しい。

<p>光村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入門期の「Let' s enjoy English!」の内容配列の意図が明確でなく、活動が混在している。 ・ 「受け身形」を2年と3年で両方扱っている等、言語材料の配列は生徒が時間をかけて学習できるような工夫がされている。 ・ レイアウトについて、色使いが目に優しく工夫されている。 ・ 4技能を総合的に活用させる言語活動として、「Go for It」が3年間で9個設定されている。その内容ではスピーチは3つにとどまり、口頭での表現が少ない。 ・ 題材は登場人物の日常生活に則したものが多く、英語を通して幅広く考えさせる上ではやや物足りない。
-----------	---